

武蔵五日市駅前拠点施設の設計の考え方について

本施設は、令和5年8月に策定した「武蔵五日市駅前市有地活用計画」に示す市有地活用の基本理念等を実現し、秋川流域における活力と創造力を満たす学習の場として、様々な人が集い、学び、憩う場所を提供し、もって地域の活性化に寄与することを目的としています。

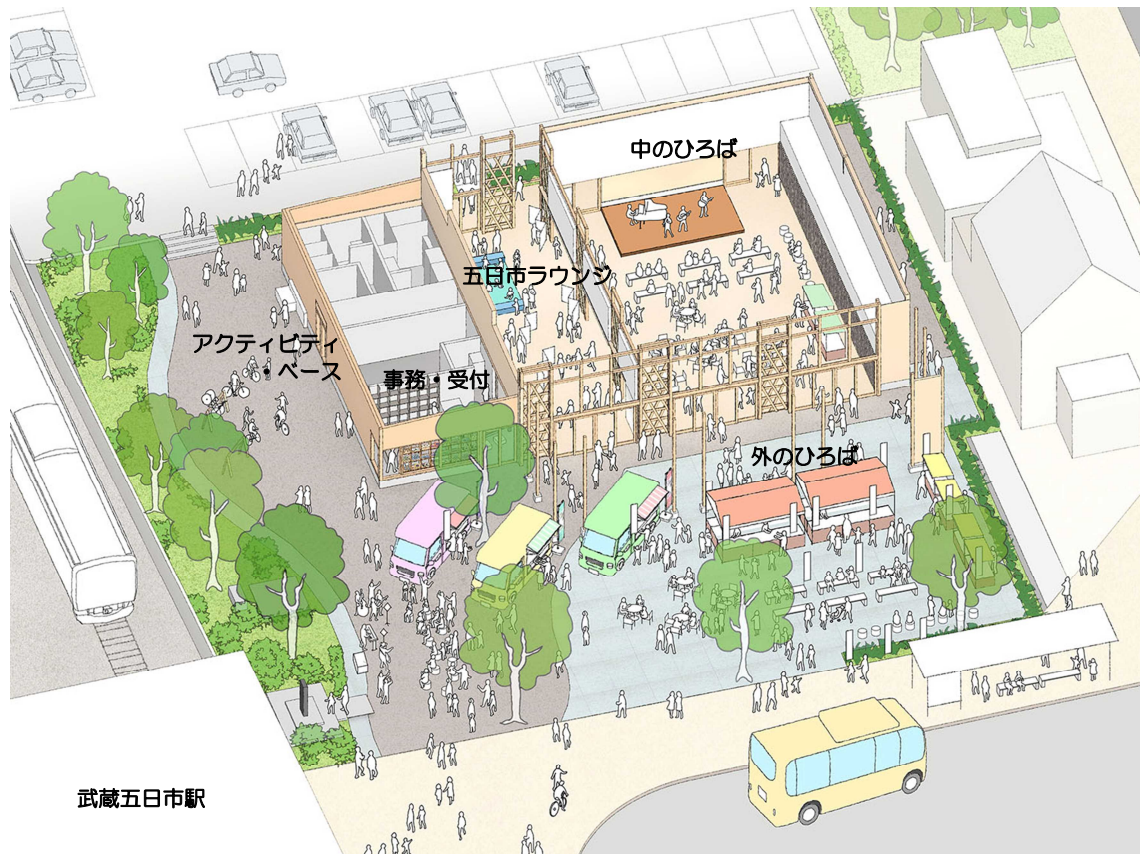
建物の設計では、市民や観光客、事業者など、様々な人が気軽に立ち寄れ、交流できる場として、普段使いで休憩したり、観光やまちづくり・移住定住等の情報を受け取ったり、タウンミーティングやミニコンサート、お祭りイベントなどに利用できる、フレキシブルで誰にも親しみやすい「場」となるよう計画しました。



外観について

活動や展示が主役となるようにシンプルな建物形状とし、駅前ロータリー側には大きな開口部を設け、駅の玄関口や五日市街道交差点から施設内での活動の様子が良く見えるよう計画しました。

駅前に面した外のひろば側には大きく屋根を張り出して日除け雨除けとするとともに、その半外部空間によって内外部の活動が連続することを意図しています。



空間について

① 中のひろば

多目的な広い部屋で、タウンミーティング、コンサート、映画上映会、講習会、企業の研修会等の利用を想定しています。

外のひろばに面しており、大きなイベント時は外のひろばと一体的に利用できます。

五日市ラウンジとの間も連続的なしつらえで、五日市ラウンジと一体的に憩い・滞留、情報発信の場として活用できます。

② 五日市ラウンジ

のんびり休憩したり、バスや電車を待ったり、駐車場から駅へ通り抜けたりといった普段使いの中で、観光情報、移住情報、まちの情報提供の場となることを想定しています。

地域の起業者・事業者のチャレンジショップや展示などでも利用できます。

③ 事務・受付

施設運営の拠点であるとともに、観光情報、移住情報、まちづくりの情報など、秋川流域の様々な情報を提供するカウンターを設けています。

④ アクティビティ・ベース

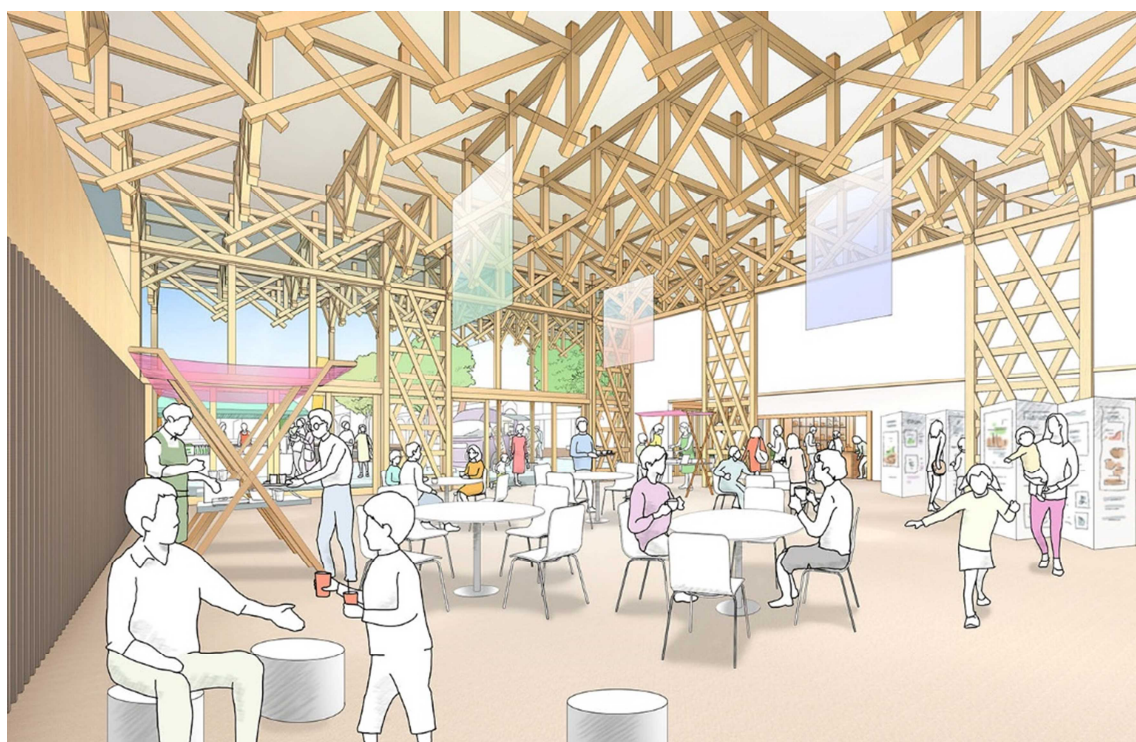
秋川流域の各地に向かうランナーやサイクリストなどの利用を想定し、更衣室、ロッカー、WCを北側出入口近くにまとめて配置しています。北側出入口を電子認証化することで、更衣室等の時間外の利用にも対応できる計画としています。

また、出入口の外には、外部流しやサイクルスタンドの設置します。

⑤ 外のひろば

駅前ロータリーに面して駅前に賑わいを生み出すイベントひろばとして計画し、中のひろばから連続する大屋根で人の居場所を生み出します。

ひろば各所にキッチンカー用の電源を用意し、地域の事業者等による出店を想定しています。



ユニバーサルデザインについて

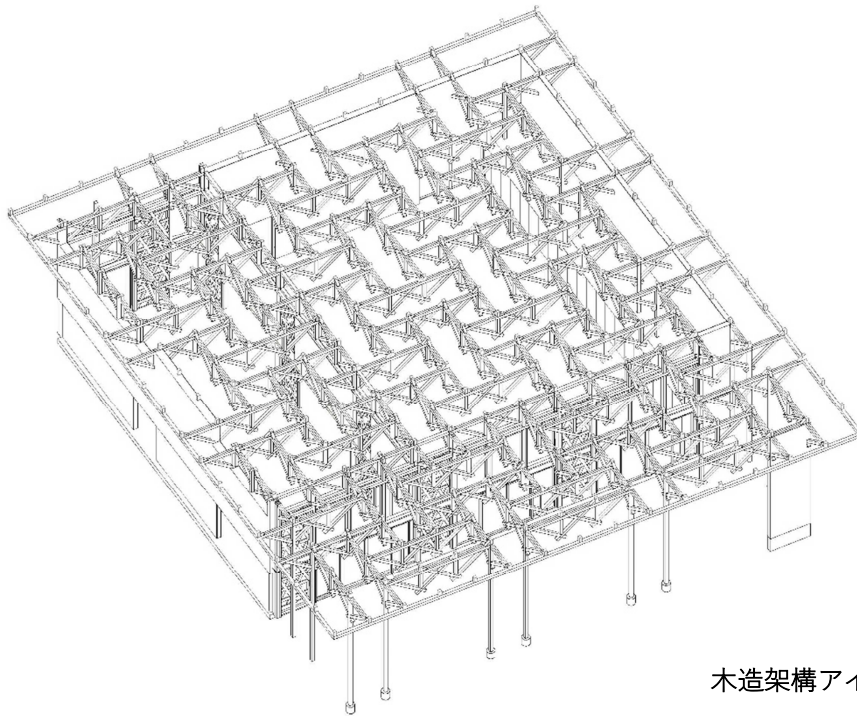
車いす使用者への配慮のほか、多様な使い勝手に対応した水廻りやピクトグラムによるサイン計画、分かりやすい玄関・案内カウンターの配置、授乳室やキッズコーナーの設置など、多くの方々の様々な利用の場面を想定して計画しています。

木造架構について

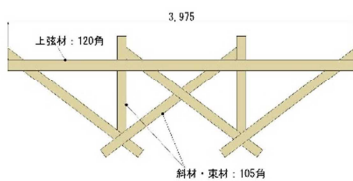
本施設の主人公は集まって来る人々やその活動になりますので、建築そのものに強い象徴性はありませんが、意匠の特徴として木造架構があります。

架構には、製材したままの多摩産材を活用します。普段、住宅に用いられることの多い多摩産材を活用するため、一般流通製材の寸法の製材を用い、木と木を組んでつくったトラスを、レシプロカル構造という配置で組み合わせることで、長さ4mの木材で15mの屋根を架け渡します。

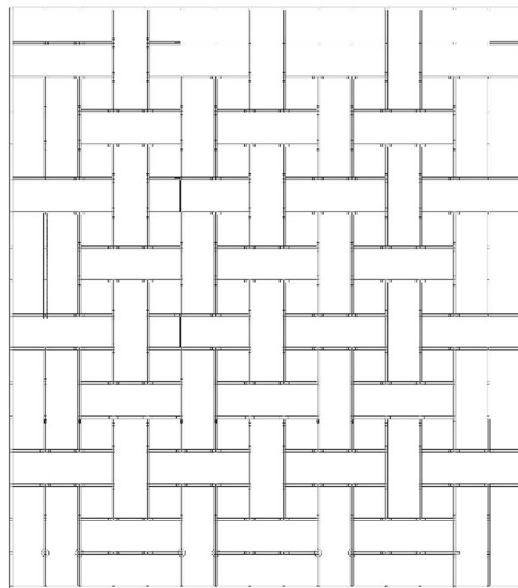
軽やかな木あらしの架構が、中のひろばからロビー、大屋根のひろばを覆い、柔らかい雰囲気と「場」の一体感を生み出します。



木造架構アイソメ図



木を組み合わせてつくる
W型トラス



レシプロカル構造のトラス配置